



「奈良府民」

館長 泉森 由貴

2月です。標高400mの田原にはいつもどこかに雪が残っている季節です。公民館は南に背を向けて建っているの、大屋根に積もった雪は止んで晴れ間が広がってから時間差で降りてきます。駐車場にドサツと音をたてて落ちる雪に驚かされることもあります。



絵・平古力三

さて、皆さんは「奈良府民」という言葉をご存じですか。奈良は観光地として有名ですが、県外就業率が非常に高く、ベッドタウンとしての側面を強く持っています。大阪府、京都府に勤めて、昼間は奈良を空けている人たちがそれだと言われています。どこかマイナスイメージが伴うこの言葉ですが、かつて本当に奈良が「府」だった時代があったとか。今の一道一都二府四十三県になる前、奈良は合併、分離を繰り返して

平成27年 2月号



法人 田原公民館
〒1078-1108 奈良市生野町1078-1
TEL 81-0888
発行責任者 泉森 由貴

た低迷の歴史があります。大阪府の一部だった時代。堺県という名前だった時代。様々な時代を経て独立した奈良。この地に住んで奈良を誇りに思う人が今の形を実現したものと思えます。そもそも「府」とは何か。文字としては行政機関。役所の意味を持っているのですが、廃藩置県当時、天領のうち奉行支配地を府と定めると政府が決めたそうです。新たに首都となる江戸府(東京府)。古都奈良府。大阪府、京都府を含む10の府ができ、スタートしました。やがて奈良を含む府は県となり、都である東京と有事の際に首都を補完できる大阪府と京都府を残したとのこと。後に東京府は東京市と合併し東京都となったそう。地方創生という言葉が新聞を賑わせている今、東京一極集中がすべての悪のようには言われず。しかし、街の価値は人口の順位や経済の規模で決まるのではなく、それぞれの個性や魅力によって成り立つものだと思います。東京に来訪するのは入浴と言います。大阪は来阪。奈良には来寧(らいねい)という言葉があります。私はこの寧楽と書く奈良が何とも趣があって好きです。奈良は東京や大阪にはなれませんが、逆もなれません。奈良には奈良らしい、田原は田原らしい個性を大切にこれからの地域づくりができたらいいかもしれませんね。

地域おこし協力隊事務所を訪ねて

年が明けた1月14日。

水間小学校跡地に開設されている、地域おこし協力隊の事務所を訪ねました。田原担当がこの紙面でも以前紹介しました瀬戸山さんと佐伯さん。柳生担当は黒田さん。大柳生は野崎さん。狭川、東里担当の奥瀬さんに、それぞれお話を伺いました。(以下敬称略)



Q ニューズの1日の勤務は？
まず8時半に出勤し、ミーティングを行います。1日の流れを確認後、それぞれの担当の地区へ向かいます。正午に事務所に戻り、昼食。午後からは担当地区に行ったり活動報告書の作成やブログでの情報発信などをしています。勤務終了は5時15分です。

Q 現在特に力を入れていることは？
瀬戸山：ここに在る皆で東部山間のガイドブックを作成しています。間もなく締め切りを迎えますので原稿作成や写真配置に気を配っています。また、生産者の話を聞かせてもらい田原をPRするためにもどうすればいいか模索しているところです。



野崎：阪原の営農組合の活動に参加したり、深刻化する鳥獣害問題について猟友会の方々と解決策を考えたりしています。年々増加している被害に苦慮しています。奥瀬：地域産業は何と言っても農業です。将来の生業として農業をやりたいので、少

しでも地域に貢献できるよう頑張りたいです。黒田：柳生観光協会と共にHPの作成に取り組んでいます。コストをかけず、いつでも新しい情報を発信できるように気を配っています。佐伯：田原村史を熟読し地域を知るところから始めています。子どもたちが増えるための活動を行うことが必要だと思います。

Q 担当以外の3人に伺います田原の印象は？
奥瀬：まずは皆、田原が好きです。田原は通勤ルートですが、お気に入りです。他の地区に比べて食事場所も多いですね。野崎：まちづくりの条件が揃っていますね。壮年層の下支えが大きな力だと思います。黒田：まちづくりの基本計画が出来上がっているところが他にない強みだと思います。

Q 田原のお二人にお気に入りスポットは？
瀬戸山：正直たくさんありすぎて悩みます。あえて挙げるなら、太安萬侶の墓からみる雄大な景色です。また時折みられる矢田原の朝もやですね。幻想的で好きです。佐伯：横田町から南田原町へと続く道沿いの炭小屋は不思議な魅力がある風景ですね。また、ギャラリーファブリル前の小道を横田のほうに歩いていくと茶畑と竹林にできます。その空気が好きですね。



同じ事務所内においても、それぞれの役割を担い、奔走する協力隊。田原公民館も彼らと協働し、地域おこしの一翼を担うことができたいと思います。彼らの活動を応援していきたいです。



取材：平古力三
写真：泉森由貴

第10回は「岡井麻布商店」の館長 岡井孝憲さんの登場です。

ログハウスのお店の別棟にある新しい工房にお伺いしました。▼この工房は初めてお伺いしました。●そうですか。ここは、落ち着いて仕事がかどりますよ。静かですしこの窓からの風景もとてもいいですよ。

▼里山と田んぼがとも絵になりますね。●仕事をしてもほっとしますね。今もこの窓の下畑では野菜を作っています。耕運機で深く耕すので野菜も立派に育ちますよ。▼羨ましいですね。ところで田原やま里博物館のパンフレットでは江戸創業とありますが何代目になりますか。●創業は文久3年で、私で5代目になります。もともとこの地で造り酒屋から麻屋になったと聞いています。江戸幕府から武士の袴に奈良晒が推奨され、全国に其の名が広まりました。仙台の正月の数え歌6月には、奈良晒の歌詞が出てきますよ。▼奈良晒は暑くなる時期に最適な布なのでですね。●麻は強度があつて水分的吸収、発散も良いものです。現在もお坊さんの法衣や帯も受注して織っています。仕



様にも様々な注文があります。個別対応で製作しています。▼後継者はおられますか。●今、息子が一緒にやってくれていますので、6代目としてしっかり勉強してくれています。私も、なら工芸館で4月〜7月の14回コースをかれこれ15年続けています。▼どんな方が受講されますか。●遠くは千葉県から参加される方もおられますよ。夜行バスで無欠席で修了され驚きました。受講者の年齢は20歳から70歳と幅広いですが、年齢や器用さには関係が無いようです。むしろ不器用の方で教えたおりに根気良く続ける人のほうが上達しますね。▼ところで岡井さんは5代目への就任には抵抗なかったのですか。●私が中学3年の時4代目の父が42歳で亡くなりました。当時は米、茶、麻布を作っていました。若くて麻への思い入れも深くありませんでした。しかし24歳の時3代目の祖父が亡くなった時は、自分の代で絶えることに抵抗感が生まれました。▼5代目として東向商店街や、三条通りへの出店など奈良晒の普及活動も盛んですね。●商品を卸すことには違和感がありました。11年前に東向店、4年前に奈良店を出店し、お客様の顔がよく見えます。最近は外国人の方々が、日本人以上に日本文化を勉強されています。▼何が人気ですか。●タペストリーや袋物ですね。特にフランス人には日本ブームです。▼最後にこれらの夢をお聞かせください。●奈良晒を地元の人々と共に継承して伝統産業「百年たつても奈良晒」としていきたいですね。プラス思考で皆の協力と、人との繋がりのおかげで、良いヒントが得られると思っています。

田原小中学校の9年生が授業で公民館を訪ねてきてくれました。

1月のある日、田原小中学校9年生(中学3年生)が6人全員で公民館を訪ねてきてくれました。「郷土なら科」という授業で自分たちの住む地域に目を向け、歴史や魅力などを調べて、一冊のパンフレットにまとめたという皆さん。調べたことの発表と、まとめた中で疑問に感じたことを尋ねに初めて公民館に来てくれました。



彼ら、それぞれが興味を持った地域の紹介と田原の名物紹介を綴った12ページのカラーパンフレット。ちょっと恥ずかしそうに自己紹介から始まった発表はそれぞれの個性をもってまとめられていました。

幼稚園を含めると11年間のどんごが丘生活の間もなく終える6人。田原から巣立つ前に地域のことを知る機会をもったことは、いい経験になったのではと感じました。

彼らから今の田原の人口はどれくらいですかという質問がありました。千八百人というデータがありますが、そのうち子ども達が占める割合はわずかなもの。20代、10代、9歳以下とどんどんと少なくなっている現状があります。

春から高校生になって新たな道をいく彼ら。外から見る田原をどんなふう感じ、

2月の公民館関係行事とお知らせ

- 1 1日(水) 祝日のため休館
- 1 2日(木) 自主グループ代表者会議
- 1 4日(土) 主催講座 第10回

TAWARAキッズ

「ピザづくりを楽しもう！」

2月3日は節分です。

今年の恵方は西南西です。



財團キャラクター
しか丸くん



プチ田舎暮らし田原 一果樹剪定

自己流で育てている柿・栗・梅などの果樹を専門家の指導のもと、剪定してみませんか。

日時：3月19日(木) 午前10時～正午

場所：田原公民館 講義室 館近郊の果樹畑

対象：奈良市在住・在勤・在学の成人20人

費用：無料

講師：北部農林振興事務所

※切：2月26日(木)

この地でまた文化や歴史をつないでくれる世代になってくれるのでしょうか。今から楽しみにしています。彼らがまとめたパンフレットは公民館の玄関に配架しています。自由にご覧ください。

